

つばさ「行動障害がある発達障害児者への支援の実際」研修会
(2015.12.13)

学校生活に困難さを抱える生徒への
とりくみから



北九州市立企救特別支援学校

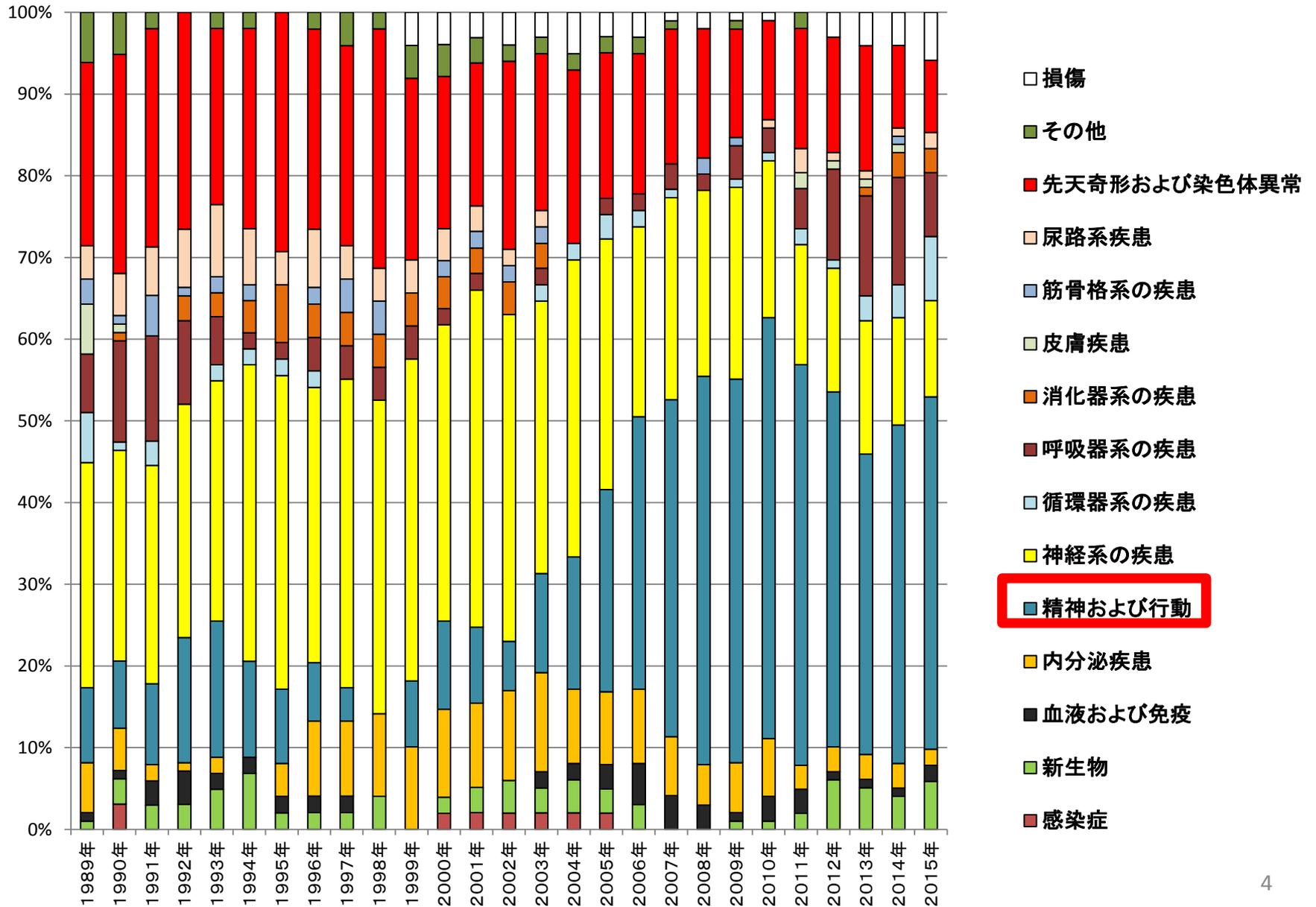
特別支援教育コーディネーター 居原 孝侍

今日、お話する内容

1. はじめに
2. 本校の現状と課題
3. 事例
4. 支援を振り返って

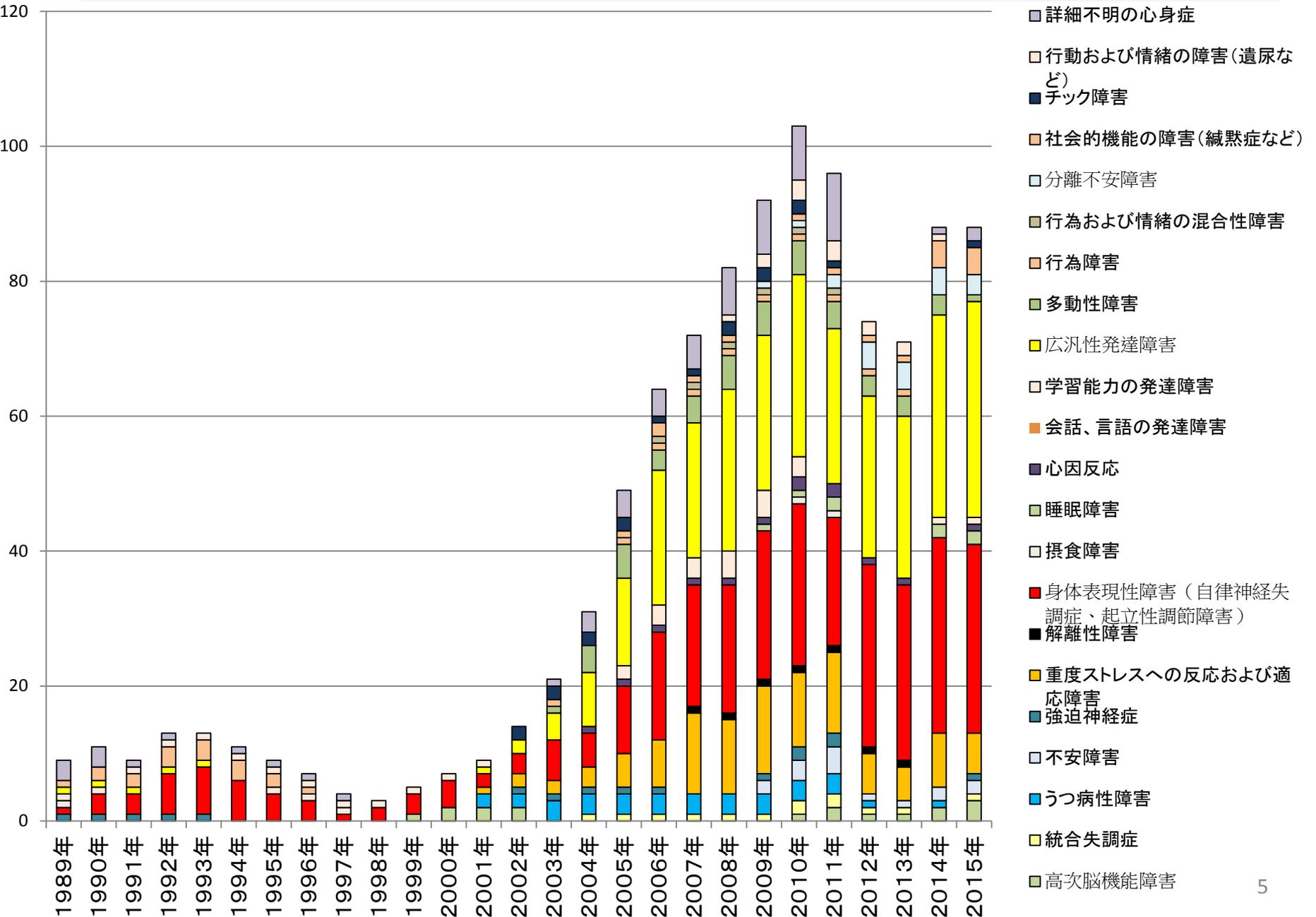
本校の現状と課題

主疾患の割合の推移(1989年～2015年)

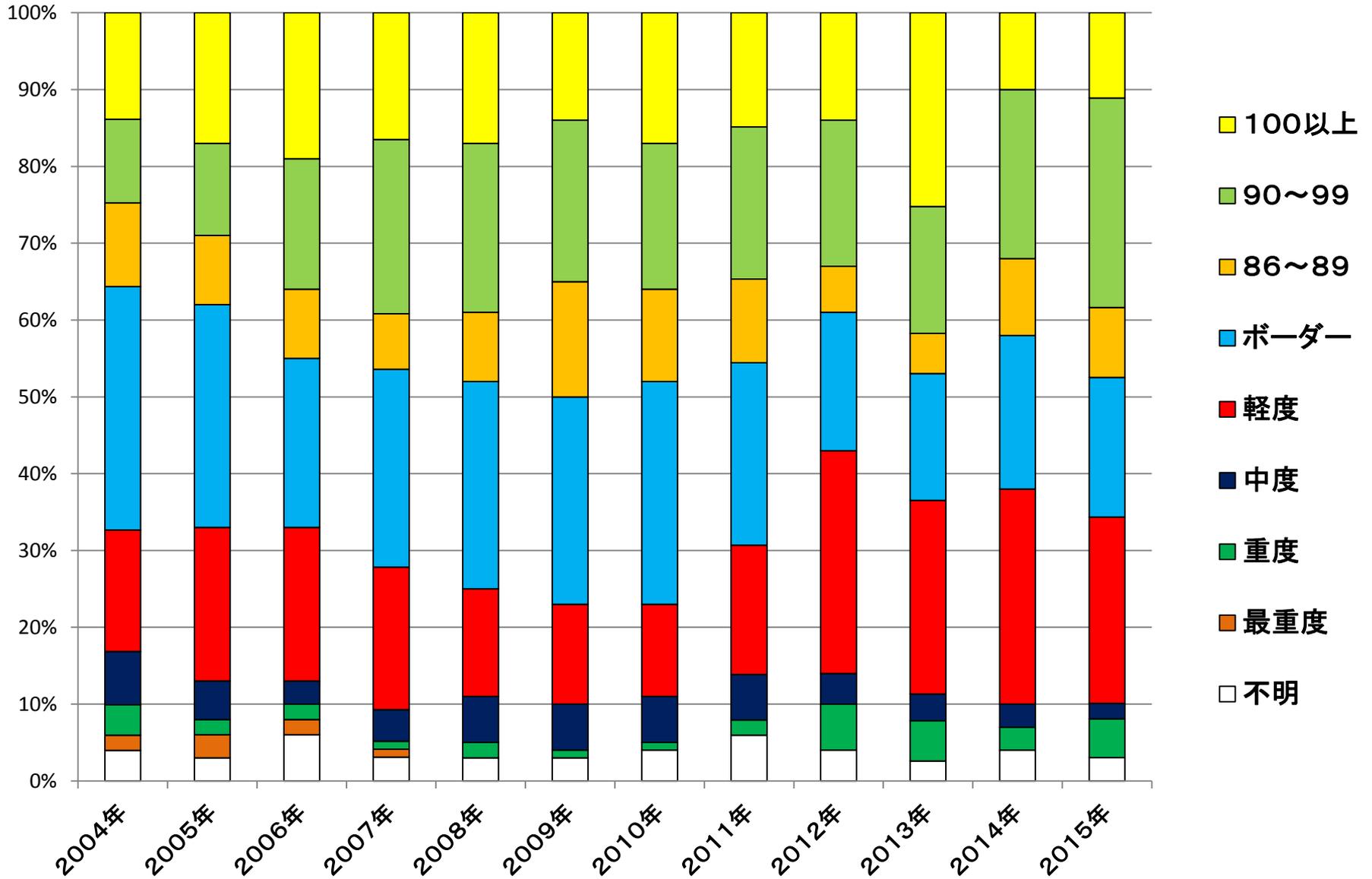


MRは除いた「精神及び行動」の疾患延べ数(1989年～2015年)

人



転入学時の知的レベル



課題

- 「病気」の種類が多様化
 - 心身症及び精神疾患の児童生徒の増加と対応
 - 集団不適應な児童生徒への対応
- 教育内容の多様化
 - 知的能力の幅の広さ
 - 感覚や集団への適應に課題をもつ児童生徒の増加
- 障害の重複化
 - 肢体不自由、知的、視覚障害、聴覚障害、情緒障害を併せもつ児童生徒への対応
- 脆弱な家庭基盤
 - 障害の受容や虐待等
 - 福祉や医療、就労分野等の機関との連携の必要性
- 幅広い進路指導の必要性
 - 福祉就労から専門学校や大学等の進学まで
- 丁寧な移行支援の必要性
 - 不登校等による他校からの転入学生や過年度入学生の増加
 - 校内での情報の共有

事例

転入時のA君のプロフィール

○就学前

○情緒学級へ入学

○小5の12月に体験学習を経て、3学期から本校に転入

A君の主な特性

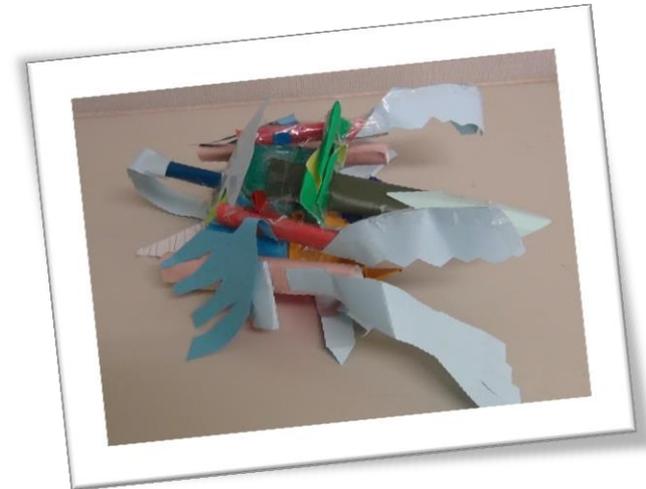
○不安の強さ

○こだわりの強さ

○耐性の低さ

○コミュニケーション能力の弱さ

○集団（友だち）への期待感



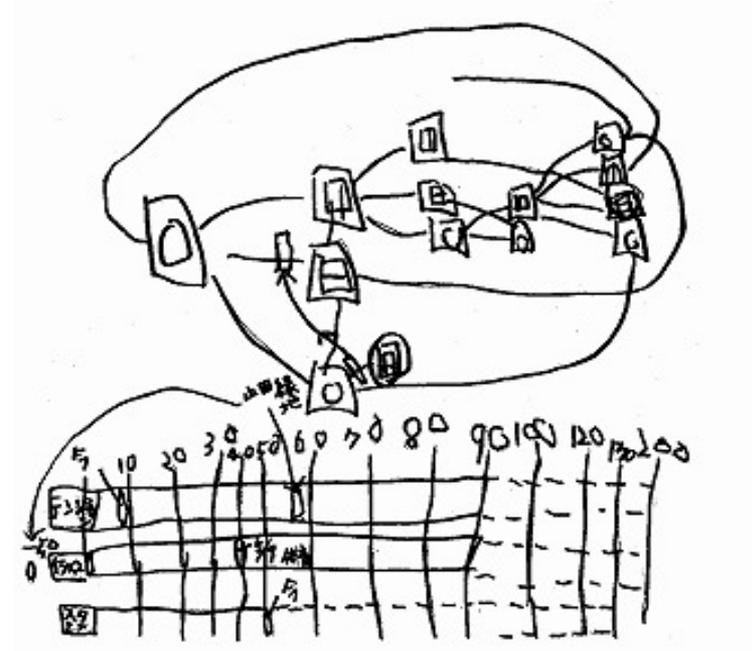
6年生の時のようす

○担任教師との関係づくり

○学習態勢作り

○コミュニケーション能力の向上

○集団学習（生活）の適応能力を伸ばす



中学部 1 年生 1 学期の様子

○学習面

○生活面



ソーシャルストーリーを作成

学年やC.O.と原案を作成→母親やつばさの職員と検討→本人に提案

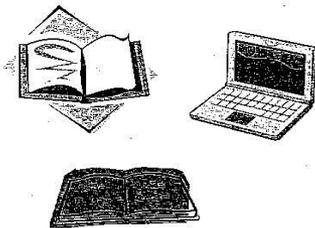
No.1

「学習や授業のルール」
2学期より確認用
ソーシャルストーリー



これらを読むことは、**息が楽しく学校生活を送っていくために役に立つこと**です。**息が立派な特別支援学校にまでから1年生が過ぎ、中学生になってから1学期も経ちました。**この夏、学校にも慣れ、みんなが楽しめることを計画したり、みんなの役に立つアイデアを出してくりたりして、**友達と楽しく遊ぶこと**が楽しみになっています。二人な**息のいい顔はこれからも無くさず伸ばせたらなあ**と思います。でも学校は、**友達と遊ぶだけでなく、分らないこと**をわかるように勉強する場でもあります。「勉強が分かるようになりたい、でもどうやったらわかるようになるのだろうか?」という気持ちも、**息ももっていること**と思います。それは、**息や 弟、みんなも同じ気持ち**です。いや、**中学部だけでなく、小学部や高等部の人たち**みんな同じ気持ちだからこそ、**毎日学校に来て、先生たちから勉強の仕方を習っているのです。**遊びにもルールがあるように、その勉強の習い方にも、ルールがあります。そのルールを守れば必ず勉強はわかるようになります。**息に説明できないので、まず守るべきルールを立てて、やっています。**息が**将来困らないように、先生たちは全力でサポート**します。**入学などは勉強時間と遊びの時間を区別することです。**これは、**将来高校に行くときや働くために必要**なことです。

1



- * きつくなったら、机上の学習(読書・ドリル・パソコン) () () を認めます。
- * ボード(板)の上でやります。

きつくなったら、その時間の教科の勉強から離れて机の上でのほかの学習をすることが認められます。例えば、**読書や、計算や漢字ドリル、またはパソコンを使った学習**です。**息や遊びはできません。**これは最初期した、「**勉強時間と遊びの区別をつける**」ためです。

4



- * 授業の「始め」と「終わり」は、着席します。
- * 写字係の仕事をします。

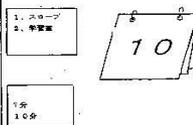
一つ目は、**「先生が教室に入ったときに授業を受ける」「終わりは着席します」**休み時間と同じこととしては、**勉強のことがわかるはずがありません。****写字係**で仕事をかけるときも、「さあ、今から〇〇の勉強を始めるぞ」と自分の気持ちを伝えるには勉強にスイッチを切り替えるつもりで頑張ってみよう。

2

クールダウンカード

7時 自由時間
クールダウンに
へ行きます
分間
行きます
1日 10回まで認めます
1時間には、2回までです

回数カウントカード



- * 出る時は、カードを見せ、**行先と時間を告げて出る**
- * 場所は、スロープ、使っていない学習室
- * 時間は、7～10分の間

一つ目は、**それでも勉強で過ごすことが苦しくなれば、事前に教室から離れることは認められます。**これをクールダウンと言います。**学習室での気分転換なので、授業を出て遊びや読書はできません。**それは休み時間です。しかし、**机上の学習(読書・ドリル・パソコン) () ()**は認めます。クールダウンは、1日10回までです。1時間には、2回までです。**使うときはその時間の教科の勉強にクールダウンカードを見せ、行き先と離れる時間を告げて教室を出るようになります。**行き先は、スロープ、または図書室のない学習室(居間)か使われない机に書いてください。**授業中の教室や机には行けません。**クールダウンできる時間は5～10分の間で選んでください。

5



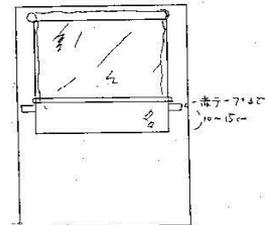
- * まず、先生の話や課題に取り組みます。
- * 10分からスタートします。

二つ目は、

「45(40)分授業に**集中**できるように、**取り始める時間を少しずつ遅くしていく**です。いきなり40分集中することは難しいと思うので、**まず10分集中することから始めましょう。**その間は、とにかく**先生の話を聞き取る**ようにしよう。勉強の時間が「**わかっている**」ことがあるかもしれません。でも勉強はわかっていることを土台にして積み上げていく**授業**のようなものです。だから始めの話を聞いておくことはとても大事です。そして10分集中できたら**又は15分、20分と集中できる時間を伸ばしていきましょう。**しかし、10分集中できたとしても、**息や弟がその時間に慣れていないと苦しくなるかもしれません。**

3

学習室



- * カギはかけません
- * カーテンは赤テープの所までとし、安全確認ができるようにします。
- * 中ではクールダウンだけです

学習室を使うときは、**扉をかけたカーテンを見えなくしてはいけません。**これは先生たちが**自由時間の安全を確認するために確認**に必要なことだからです。

6

生活面

- 「課題後は、机上の学習（読書、描画、折り紙等）をすることは認める」
- 「基本的に学校の物品は自由に消費しない」
- 「学習室で過ごす場合は、鍵をかけたり、カーテンを引かない」

学習面

- 「授業の始めと終わりの挨拶は、着席して行う」
- 「授業の始まり15分は授業の話や課題（プリント等）に集中する」

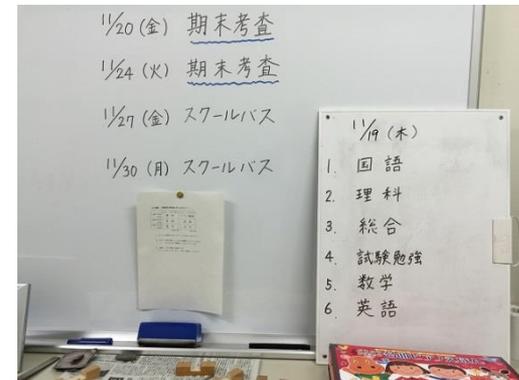
中学部2年生の取り組み①

○学習について

- 興味や関心のあるものを取り上げようとするが…

- 体験的な学習に誘うが…

- 別室で1対1の学習の試み

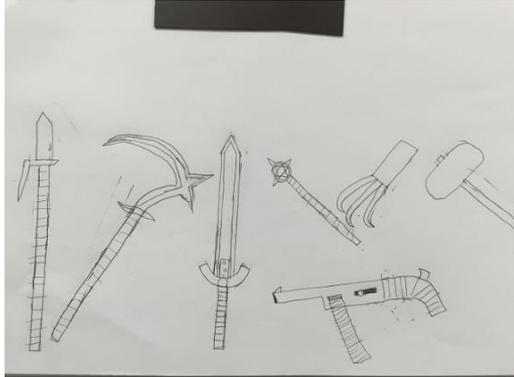


中学部2年生の取り組み②

○職場体験学習（10月下旬の二日間）

中学部2年生の取り組み③

- ものづくりへの興味や関心
 - 創作的な発想の豊かさ
 - 美術教師の所作をまねる



中学部2年生の取り組み④

OSBの利用について

生活面では、挨拶を返したり、カッとなっても長引かなかったり、指示に従う場面や友達の輪に入って会話を楽しんでいる場面も見られるようになった

支援を振り返って

○本人との信頼関係づくり

→本人の伴走者

○ボトムアップよりトップダウン

→持ってる力を生かして

○保護者との連携

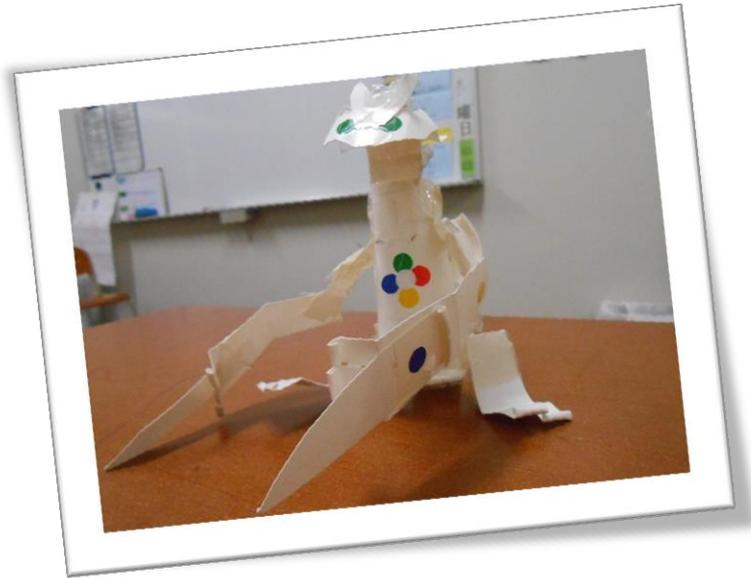
→定期的に、本人と母親、担任の三者で振り返りを行う

○「待つ」ことの大切さ

→あきらめることではない

○本校の再編統廃合のため、来年度の就学先が決まる

→卒業後の進路をどうするか



ご静聴、ありがとうございました。